

# にれのき

”にれのき”は、エルムアカデミーが  
父母・OB・サポーターに向けて発信する情報誌です。

1 2005  
January

<http://elm.m78.com/>

## 20周年を経て、エルムの展望

### 若者の「進路」について考える

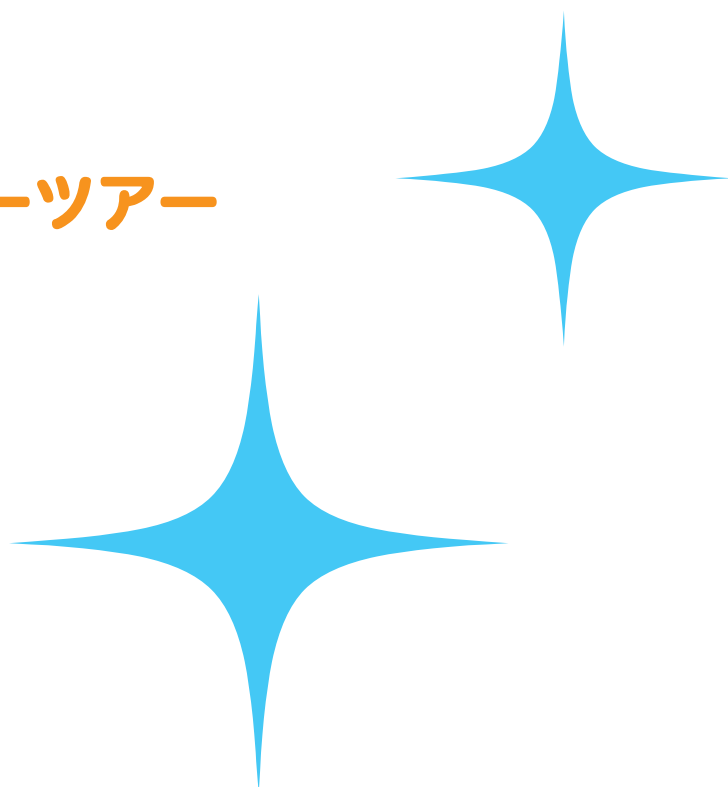
法政大学助教授 児美川先生をお招きして

### 進化を続けるエルムアカデミー

NPO法人設立 ESS事業部の活動

### 親子もちつき企画

### ケニア スタディーツアー



# まだまだまだ、これからが勝負。

代表 矢沢宏之



昨年はエルムアカデミー創立20周年の記念すべき年でした。3月に父母の会と共同で開催した記念シンポジウムでは、北星学園余市高校とエルムがお互いの培ってきた教育実践を語り合うことができました。私たちにとっては実践を整理し見定めることができた貴重な機会でした。直後のレセプションでも大勢の方にお出でいただき、暖かい励ましの言葉をいただきました。また、多くの方から、サポート基金や記念行事協力をいただきました。この行事を通して、私たちはエルムの20年に及ぶ歴史と実践に誇りを持ち、勇気を持って新たな一歩を進むことができました。この場をお借りして改めて父母・OBそして地域、教育関係者の方々にお礼を申し上げます。

昨年の1月号の「これのき」また「シンポジウム」の場で、私は子どもたちを取り巻く大人たちのネットワーク作りの大切さを強調しました。この一年間、ネットワークは様々な場面で活躍をしました。特別な教育的ニーズをもつ子ども（詳しくは楡の木2004年10月号）に対する対応でも、エルム、校長、養護教諭、担任、スクールカウンセラー、父母という六者の協議の場を持つことができました。また、不登校の子どもに対しては、エルム、担任、教頭、父母という協議の機会を得ることができました。思春期を過ぎた精神的なダメージがある青年に対しても医療機関への橋渡しをしたり、求職中のエルムOBへの就職の斡旋なども、培ってきたネットワークを利用して数多くのケースをこなしてきました。

しかしながら、これらの多くのケースは教育・医療・福祉・労働の分野に重なる部分が多々あります。これは、教育を柱にしてきた今までのエルムの力量をはるかに超えるものです。こうしたことから、特別なニーズと教育と青年の自立支援を中心としたNPO創立を今の段階では視野に入れています（詳しくは、今号6ページの記事をお読みください）。NPOは行政との関連でも、今後、不可欠なスタイルになると思われます。今年一年、関係各方面とも協議をしながら、これを立ち上げて、エルムの新しい大きな一歩を踏み出したいと思っています。

また、青年の雇用の受け入れ先として一年が経過したエルムサービスサプライも、パソコンサポート・ホームページ制作

## 読み・解く 経済

玄田 有史（東大助教授）

や業務受託などの分野で、地域の方々と新たな結ぶつきも生まれ、多くの方々から大変喜ばれています（詳しくは、今号7ページの記事をお読みください）。そして、この事業で3名の青年の正規雇用を増やすことができ、また。しかし、率直に言って、経営的には大きな赤字が生じているのも現実です。しかし、エ

ルムを成長させる痛みとして、これを乗り越えていく覚悟をしています。ぜひ教育だけでなくITなどのビジネスの分野にも挑戦しているエルムサービスサプライにもご支援をお願いいたします。

私たちは20周年で掲げた「地域に育ち、地域に生まれ、地域に育ち、地域に育ち」という理想を現実に変える」という理想を現実にするので、「ニート」と呼ばれる若者の問題の解決に寄与できると思っています（参考：東大助教授玄田有史氏の主張）そして、子どもたちの「低学力化」と呼ばれる問題にも、「学力の真の姿」を示し、大きな風穴を開けることができると確信しています。創立以来、エルムが掲

げてきた「地域に根ざす」という言葉を、再びとらえなおし、今年に進んでいきたいと思っております。

またひとつ変わっていく、エルムアカデミー、そしてエルムサービスサプライに、ぜひご期待下さい。

年の鞭になると、一年を振り返る話題を目にするようになる。今年の流行語大賞は「チヨ〜気持ちいい」だそう。だ。「チヨ〜」なんて、もう古臭い気がしてたのに。てっさりの「冬ソナ」か「ヨソ様」あたりを思っていた。

けれど、今年のキーワードを私が選ぶとすれば、地味でも「地域」を選びたい。三位一体改革は、地域が自主性を取り戻そうとする第一歩だっ

た。郵政民営化への不安も「オラが地域から郵便局がなくなるのは困る」ことから来

た。郵政民営化への不安も「オラが地域から郵便局がなくなるのは困る」ことから来

た。郵政民営化への不安も「オラが地域から郵便局がなくなるのは困る」ことから来

# 地域が「ニート」を救う

た。郵政民営化への不安も「オラが地域から郵便局がなくなるのは困る」ことから来

た。郵政民営化への不安も「オラが地域から郵便局がなくなるのは困る」ことから来

た。郵政民営化への不安も「オラが地域から郵便局がなくなるのは困る」ことから来

た。郵政民営化への不安も「オラが地域から郵便局がなくなるのは困る」ことから来

た。郵政民営化への不安も「オラが地域から郵便局がなくなるのは困る」ことから来

2004年12月11日付 朝日新聞 be on Saturday より。  
この記事は asahi.com の <http://be.asahi.com/20041211/W12/0018.html> でも閲覧できます。

## 中高合同合宿ドキュメンタリービデオ完成



エルムの合宿は「すごい」と子どもたちは口をそろえて言います。しかし、合宿の中身は外に見えない状況でした。エルムの教育を伝えるには合宿を抜きには語れない。ということでプロジェクトチームを組み、「小原先生と3A」を追いかけたドキュメンタリービデオを制作しました。1月に父母職員向けに試写会を行ない、最後の修正に入っています。でき次第、広く普及する予定です。

「人間らしく生きる」。

そんなモデルを子どもたちにしめす。  
それが、エルムの大切な役割。

**エ**ルムが大切にしている柱の一つに「進路教育」があります。「進学」ではなく「進路」がポイントです。「なんのために学ぶのか」「何をしに学校に行くのか」。このような問いを常に子どもたちと考えてきました。しかし、近年、大人でさえも見えにくくなっている時代の中で、子ども青年たちは、この「何のために」が見えなくなってきました。だからこそ、いまの時代にあった進路教育のあり方を私たちは考えていかなければなりません。2004年11月のエルム教員会議に、法政大学キャリアデザイン学部の児美川先生をお招きして「今日における子ども・青年の進路と、進路指導・キャリア教育の課題」と題してこの問題を考える学習会を開きました。



学習会の詳しい内容については、近日中にエルムアカデミーホームページにて公開予定です。

<http://elm.m78.com/>



2004年11月教員会議学習会

## 今日における子ども・青年の進路と、 進路指導・キャリア教育の課題

法政大学キャリアデザイン学部の児美川先生をお招きして



児美川孝一郎

(こみかわ こういちろう)

1963年生まれ。

非常勤講師などを経て、96年から法政大学文学部教育学科。03年、同大学キャリアデザイン学部へ。

専門は教育学、教育哲学、青年期教育、教育政策。

今、子どもの進路意識は「希薄化」と「過剰」という本来は矛盾する二つの意識が存在しています。「希薄化」は将来への考えが十分ではないということ。「過剰」とは、大人たちが「自分のやりたいこと、進路を決めないでだめだ」と大合唱を始めたことに起因しています。就職の厳しさを考えればわからないでもありませんが、「将来どうなるかわからないぞ」といたずらに煽り立てるのは問題があるという気がします。

私たちは「目標を見つけ、やりたいことを探して」と子どもたちに言いがちです。しかし、進路とは本当はもっと時間がかかるし、試行錯誤もするし、途中で変わったりもするものです。そして、目標を見つけれらるためには、「俺にもでき

る」という体験をもっとしないといけません。フリーターやニートなどの現象をとらえ、「若者の働く意欲がないのは自分の未来や成長、誇りを持てる仕事と出会えなくなっているからだ」という指摘があります。しかし、この厳しい就職状況で「こだわりが持てて誇りの持てる仕事を見つかるまで探せ」と言ったら、10年、20年探し続けることになりそうです。だから、「どうやって自分なりに折り合いをつけるか」ということも教えなくてはなりません。「自分のやりたいことを頑張って探せ」とは、かなり無責任な煽りだと思えます。

だからと言って、経済界や政府が進めるような「我慢してスキルもつけて、いまある労働現場にすっぽりとはまるように努

力なさい」というのはまずいと思います。ならば、私たちはどういうスタンスをとるのか。そこがいま問われているし、本気で考えなければいけない課題です。

進路教育という営みは、子どもたちが社会とどのようなつながり方をするのかということをサポートすることです。私たちだけが安全地帯にいて、子どもたちに「お前たちはこうやって社会につながっていく」というのは無責任な指導になります。進路指導をしながら一緒に「どう社会とつながっていくのか」「どんな社会をつくろうとしているのか」ということを私たちは繰り返し問われています。

今の企業社会の中での労働のあり方はやはり異常です。そこを相対化できるような働き方・仕事のあり方をもっといろいろな形で研究しなければいけません。

そういう意味で、もっともつと私たち自身が発想を豊かにして、手を結ぶべき相手を探して出会わなければいけません。お互いが結びついて、出口同士のつないでいく。人ひとりの

大人では、見ている世界は狭い。だから従来の発想を超えて、いろいろな人と連携していくというのはすごく大事なことです。それをやらないと、やっぱり出口はつくり出せません。

パートや派遣労働がこれからは標準になってくるでしょう。その中で子どもが「大人になつていく」とか「自立していく」というのはどういうことなのかというモデルを、私たちがつくれないと、「やっぱり、企業労働の世界にしがみついて何とかしなきゃ困るよ」という脅す側にしか立てなくなってしまうか。その問題をどう意識するかというのは、大切ではないでしょうか。

これからの教育は、エルムみたいなところに希望があると思つていきます。それは、新自由主義的な競争原理が進み、みんなが同じように終身雇用の中にいない社会になったとき、エリートの方に行かない人達がどうやって生きていくのかという生き方をどんなふうにも子どもたちの前に出せるかということです。「エリートでなくとも誇りを持てるし、競争競争で弱々にな

っているよりよっぽど人間らしい」というモデルを。

率直に言えば、学校の先生にはそういうビジョンは持てない。彼ら自身はやっぱりホワイトカラーで学校の世界しか知らない。そうだとしたら学校ではなくて、その周辺の地域に出ていき、たくさんいるホワイトカラーでない人達の中から「いや、こういう生き方もちゃんとあるよ」というのを見せていかないとけない。「人間の生き方」というのは、幅はいっぱいあって、どんな形でもやっていける」というのをどれだけ見出せるのか。これからの大きな課題だというふうに思っています。

編集の都合上、掲載ができませんでしたが、進路における「自己効力感」の重要性、「13歳のハローワーク」をどう見るかなど、非常に多岐にわたって有意義なお話を聞かせていただきました。

(文責 坂口人)

# Vision One

子どもたちに学ぶ喜びを感じてもらい、仲間と共に豊かに成長してほしいというのは、私たちエルムだけでなく、すべての親や地域の願いでもあります。しかし、ここ数年注目されているLD（学習障害）やADHD（注意欠陥／多動性障害）など、特別な教育的ニーズを持つ子どもたちにとって、かれらを取り巻く環境は非常に厳しく、周囲の理解や適切なサポートも不足しているのが現状です。こうした状況の中で、エルムの果たす役割と期待はますます高まっています。

特別な教育的ニーズを持つ子どもたちの支援には、その子どもに関わる多くの人の理解とコミットメントが必要となります。親や学校の協力はもちろんですが、専門機関やボランティアの活用など、その子を持つ特性に合わせて、丁寧で適切なサポートが要求されます。

こうした特別な教育的ニーズを

## 特定非営利活動法人 教育サポートセンター NIRE（にれ） 設立へ本格始動

持つ子どもたちを、地域や行政の協力も得ながら、より大きなネットワークで支えていくため、エルムが中心となり、来年度から新しいNPO法人「教育サポートセンターNIRE（仮称）」を設立することを計画しています。

この新しいNPO法人は、特別な教育的ニーズを持つ子どもたちを対象に、その豊かな成長と自立を支援するため、

① 教科学習や体験学習などの教育支援活動

② ニュースレターの発行や学習会



開催などの普及・啓蒙活動  
③ 指導者やボランティアの人材育成

という3つの活動を軸に、エルム・保護者・地域の協力で運営していきたいと思っております。

4月には設立総会の開催、そして秋には東京都へのNPO法人認証取得をめざして、現在その準備をすすめております。詳しい内容や進捗状況についてはエルムアカ

デミーのホームページに随時発表しますが、新NPO法人設立に関するご意見やご提案も広く受け付けております。

この新しいNPO法人の設立が、多くの子どもたちに学ぶ喜びを感じてもらい、仲間と共に豊かに成長していく場となるように、みなさまのご協力をお願いいたします。

# Vision Two

エルムが卒業生のための働く場所づくり、地域社会の担い手を育成することを目的に創設したESS事業部が本格的な活動を始めてから、1年が経過しました。今号2ページで

も紹介したように、この1年は、パソコンサポート、ホームページ製作、そして業務委託の分野でESS事業部は大きな前進をかけることができました。特に、パソコンサポート、ホームページ製作を軸としたIT関連事業は、クライアント（顧客）数

— 技術を蓄積する —

保育園関係で受注したホームページの一部。現在も複数の注文を受け、受注が絶えることがありません。今では、保育園からの作成・管理依頼がホームページ作成・web管理分野の主流を占めるようになっていきます。



## 本格稼働から1年 ESS事業部の これまでの活動報告と 今後の展望

売り上げとともに、大きな飛躍を遂げました。パソコンサポートでは、コンピュータの購入段階から、設置・設定までのきめの細かいサービスが、保育園のホームページ関連では、20年間、教育畑で培ってきたエルムの財産と、立ち上げ費用の安さがお客様に支持されました。お客様のどんな小さな悩みや願いごとにも丁寧に、誠意をもって対応する。そんな、アカデミー分野で築き上げられてきた文化が、今のESS事業部の成長を支えています。今現在も、保育園からの

受注を複数受け、この分野での技術を蓄積しています。今年、更なる飛躍を目指すESSへのご支援とご協力をお願いいたします。

Sample



ESSがこれまでに製作した作品例。様々なジャンル・業界の依頼をこなすことで、常に新しい技術を獲得し、それがまた新しい仕事につながっています。



## 「疲れた」の裏側にある、気持ちよさ 後期小学部特別カリキュラム 荏原肉饅亭「豚豚」

event  
2004年12月19日(日) ●  
荏原教室前緑道公園



次々と肉まんを買いに来てるお客さんに、子どもたちは驚き、不安になりつつも、真剣に営業を続けていました。



「今日はけっこう頑張った。肉まんがここまでおいしいとは思っていなかった。けっこう売れたので良かった。まあ、とにかく休まず働いたので疲れた。」  
「今日は疲れた。特に、レジ係が疲れた。お客さんはたくさんいて、いろんな性格の人がいて、接客はなかなか難しかった。」  
「今日は疲れたこともありまして。でも、すごく楽しかったです。すごいことに、行列ができて、いっぱい売れました。よく売れて本当に良かったです。2005年の特カリはもつと楽しくしていききたいです。」  
「親子もちつき」での肉まん

犀(荏原肉饅亭「豚豚」)閉店後の子どもたちの感想です。長かった1日、長かったこの3カ月間を象徴する言葉です。  
約3時間、野外と室内でほとんど休む間もなく自分の持ち場で働き続けた子どもたち。子どもたちの「疲れた」は心からの実感、まさに労働の証でしょう。けれど、その疲れ以上に、この3ヶ月間、話し合いを重ね、実験を繰り返して、試行錯誤の上で、みんなで完成させた苦労の2品を、親や友だち、学校の先生、エルムの仲間、そして偶然通りがかりの人たちが、美味しく食べてくれたことが、子どもたちの大きな喜びと自信につながりました。



## 「意味ある経験」「文化、人との出会い」をもとめて アフリカ・ケニア スタディーツアー

event  
2005年3月15日~25日 ●  
ケニア



アフリカというと、「内戦」「飢餓」「貧困」という暗いイメージ、もしくは「未開」「大自然」といった、異質なイメージが強いと思います。しかし、4年間NGOスタッフとしてケニアで働いた経験では、いろいろな問題は抱えながらも、自分たちの社会や生活をより豊かにしていくために、力強く生きていく人びとの姿がありました。

今回企画したスタディーツアーでは、ケニアで活動する日本のNGO「アフリカ地域開発市民の会Cando(キャンドウ)」のプロジェクト現場を訪問し、地域開発や教育問題に関わる分野での交流や、さまざまな体験を行なっていききたいと思っています。

03・3784・5676  
(担当:中塚)

ツアー説明会&ミニ学習会に参加を希望される方は、事前にエルムまでご連絡ください。

③個別相談  
②ミニ学習会  
①ツアーの概要説明

■日時  
2月26日(土) 19時~20時30分

■場所  
エルムアカデミー荏原教室

■内容  
①ツアーの概要説明  
②ミニ学習会  
③個別相談

「ツアー説明会&ミニ学習会」  
ます。ぜひ奮ってご参加下さい。